

□ 第一章 短作文の学習 30の窓

※以下の実践は、作文活動に内在している三つの「言語機能」を意識しつつ構想されているが、特に配慮されているのは、「子どもが楽しく意欲的に作文活動を展開して」いくことの出来る作文のネタ【題材・素材】の開発と【素材を生かす手立て】である。  
 ※30の「窓」の中で□で囲んであるものは、「素材」が他の「窓」と異なり、活動となっている事例である。

窓	題材名	素材	素材を生かす手立て	作文ジャンル	機能
1	絵を見て想像したことを書く	絵	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「一枚の絵から」</li> <li>・「二枚の異質な絵から」</li> <li>・「三枚の絵を自由な順番にして」</li> </ul>	想像作文	創造
2	新聞から材料を探して書くI―記事を中心にして―	新聞記事	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「同じ記事からいろいろな書き表し方で書く」</li> <li>・「事件の記事」「スポーツ記事」「全紙面から」</li> <li>・任意のことはばを抜き出して、そのことばを使った話を作る」</li> <li>・「善行の記事」</li> </ul>	感想文、手紙文、意見文、物語	伝達 思考 創造
3	新聞から材料を探して書くII―タイトルや写真などから―	新聞のタイトル・写真	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「季節のことば」</li> <li>・「天気概況」を使って、天気予報士と自分との電話対談を書く。</li> <li>・「今週の幸運」欄や「暮らしの伝言板」や「広告の車」の写真から書く。</li> </ul>	俳句、対談文 想像文	創造
4	会話をもとにして書く	子どもたちの会話	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師が子どもたちが発した「会話」を書き留めておく。</li> </ul>	描写文、生活記録文	創造
5	一つの文に続けて書く	一つの文	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師が与えた書き出し文に続けて書く。時には、子どもが考えた一文でもよい。</li> </ul>	想像文	創造
6	タイトルや小見出しを使って書く	タイトルや小見出し	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞、雑誌、テレビ等から面白いと感じ、心ひかれたタイトルや小見出しを選ばせる。</li> </ul>	感想文、詩、生活記録文、想像文、手紙	創造
7	色や音から連想したことを書く	色や音	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対照的な二色、よく似ている二色から話を作ったり、身の回りの音・音楽・効果音から詩や物語を創らせる。</li> </ul>	物語、詩	創造
8	物の性能を考えて書く	物の性能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な物の性能、働きから想像の翼を広げさせて書かせる。</li> </ul>	想像文	創造
9	漫画をもとにして書く	漫画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漫画の台詞や絵を使って、会話文と地の文の描き方を学ばせる。</li> <li>・漫画の登場人物や作者宛に手紙を書かせたり、漫画の説明文、コマシーシャル文、漫画対談のシナリオ作り等をさせる。</li> </ul>	物語、手紙、説明文、広告文、シナリオ文	創造 伝達
10	一口感想をもとにして書く	感想の書き出し	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師が与えた一口感想や子どもから出た一口感想をベースに気持ちや会話・行動の様子を加えて書かせる。</li> </ul>	生活感想文、生活記録文	創造
11	自分の写真を見て書く	自分の写真	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のアルバムから好きな写真を選んで、写真の内容を説明風に書かせる。</li> <li>・写真からその子の良さをみつけ、作り話を書いたり、写真に写っていないけれどその周りにいる人のことを考えて紹介の文章を書かせる。</li> </ul>	説明文、物語、想像文、紹介文	伝達 創造
12	ことばをもとにして	子どもたち	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達や家族の言葉、教科書・本・テレビ・新</li> </ul>	日記、紹介文、	伝達

28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	
あるものになったつもりで書く	広告をもとにして書く	ある書き出しを使わないで書く	友達に話すように書く	結びの文を考えてから書く	その物を利用するつもりで書く	絵の中での会話を想像して書く	ある人にあてて書く	ある物にあてて書く	リレーして考えを書き	図形や記号をもとにして書く	絵の人物が話しているように書く	詩や文章の一部をイメージで補って書く	5W1Hをふくらませて書く	対談風に二人で書く	ことばをもとにして書くII	書くI
あるもの	広告	ある書き出し	友達	結びの文	身近にある物	絵の中の会話	ある人	ある物	リレー	図形や記号	絵の人物	詩や文章の一部	5W1Hの型	対談、クイズ、問答	子どもたちにとつてあまり身近でないことば	の身近なことば
・あるものになりきって書かせる。	・新聞や雑誌の広告を見て、日記・テレビ番組・レポーター形式等の文章を書かせる。	・話題、日時以外の書き出しで書き始めさせる。 ・音、会話、情景、考え、心情、行動、様子、気持ち等から書き始めさせる。	・話す相手を友達に定めて書かせる。	・様々な結びの文を与えて、その結びの内容に辿り着くような形で文章を書かせる。	・主として情報を送る手段として利用している電話・ファックス・パソコン等の媒体を活用するつもりで書かせる。	・絵に描かれている人物や物になったつもりでどんな会話をしているのかを想像して書かせる。	・様々な人に宛てて自分の思いや考えを伝えさせる。	・身の回りにある様々なものを人間に見立てて考えていること・感じていることを述べさせる。	・フリートードキングの形で自由に考えを述べさせる。	・図形や記号から想像したことを書かせる。	・絵の中の人物から、その人物の思いや行動を想像させて書かせる。	・空欄を設けたワークシートを作り、空欄に当てはまる適切な言葉を想像して書かせる。	・5W1Hの型に当てはめて自分が書きたいことを肉付けさせる。	・鉛筆対談を基本とし、話題・役割・書く量や時間の制限を設けて行わせる。	・漢字、難語句、慣用語、ことわざ等を取り上げさせる。	・開等の中で出会った言葉を取り上げさせる。
詩、想像文	日記、対談文、報告文	生活感想文、生活記録文	想像文、報告文	想像文、生活感想文	通信文、報告文	想像文	手紙、生活意見文、生活感 想文	生活感想文、生活意見文	生活意見文	想像文	想像文	想像文	報告文、記事文	対談文	物語、意見文、説明文、メッセージ	生活記録文、物語、詩
創造	伝達	創造	創造	創造	伝達	創造	伝達 思考	創造	伝達 思考	創造	創造	創造	伝達	思考	伝達	創造

29	抽象的・象徴的な題からイメージして書く	抽象的・象徴的な題	・事物を具体的に指し示しているような言葉を使わずに、例えば「あのときの〇〇」といった広がりをもった題を与えて書かせる。	生活感想文、生活記録文	創造
30	行動・様子・会話・情景などを入れて書く	行動・様子・会話・情景	・行動、様子、会話、情景を入れて場面に様子や人物の気持ちを一層生き生きと描き出させている。	生活感想文、生活記録文	創造

□ 第二章 心をつなぐ作文活動

※これらの実践は【伝達】【思考】【創造】という三つの「作文の言語機能」を意識して行われている。※「言語機能を生かす手立て」の部分で「線」を付した箇所「心をつなぐ」という配慮がなされている。

言語機能	単元名	題材	言語機能を生かす手立て	作文ジャンル
【伝達】 気持ちや考えを伝える	【実践Ⅰ】 教えよう、ひみつやニュースを	「ひみつ教えます」 「今週のニュース教えます」(二年)	・読んで貰う相手を「一人だけに決めて書く」と指示している。 ・自分の一週間の生活を振り返り、みんなに教えたことを書かせている。 ・子ども同士の読み合いの交流を通して文の質を上げる方策としている。(読んでやった後に友達や家族から感想を書いて貰う。)	報告文 生活感想文
	【実践Ⅱ】 マリーゴールドにそえて	栽培活動の実体験。(四年)	・これまでの栽培活動を振り返らせつつ「語りかけるように」「自分たちの花で町中を美しくして欲しいという願いをこめて」という指示で書かせている。 ・育てた花には手紙を添えて、日頃世話になっている人、隣近所の人々、親戚の人や学校の近くの役場・農協、コンビニ、郵便局等に届けさせている。	呼び掛け文 手紙文 生活感想文
	【実践Ⅲ】 わたしたちの兵庫町案内	今まで気づかなかつたわが町の良さを学校以外の多くの人に伝える。(五年)	・案内は冊子にすること、書く際にはリレー作文を行わせている。 ・取材は、学校にある資料や前年度の社会科の副読本、学校内のクラブの子どもが集めた資料、クラブ顧問へのインタビュー、校長や教頭への質問を通して行わせている。	紹介文・説明文 新聞記事 絵葉書 俳句と解説 対談
【思考】 考えを確かめるものとする	【実践Ⅰ】 「なぜ」心とお話してみよう	「暮らしの中から」「問いかけから」「物語から」「ある日のできごとから」「行事の中から」「新聞記事から」「出来事・事件から」(二年)	・一人一人の思いをつなげて共同で作文を書かせる。 ・物語の中の登場人物を選ばせ、手紙形式で考えを書かせる。 ・身近なできごとを題材にして自分の考えを書かせる。 ・友達同士での感想の交流も行わせている。	生活感想文 手紙文 生活意見文
	【実践Ⅱ】 ことは・広げよう深めよう	「過去の自分との交流」「異学年の人との交流」「周囲の人々との交流」(四・五年)	・「思考力」「交流」「楽しさ」を縦系にし、「言葉獲得」を横系にして実践を構想している。 ・ワークシートを文集として編集し、家庭にも届け手紙をいただいている。	生活感想文 生活意見文 手紙文
	【実践Ⅲ】 パンは、だれ	物語の登場人物の発する言葉や行動を扱	・書き上げた「続き話」の中で共感する言葉や反発する言葉を手掛かりにお互いに意見	続き物語 生活意見文

<p>《総合的な学習と作文》</p>	<p>環境について考える</p>	<p>〔実践Ⅲ〕 ようこそ、ミクロキッズの世界へ</p>	<p>〔実践Ⅱ〕 ことばっておもしろい</p>	<p>【創造】 楽しみ味わうものを創り出す</p>
<p>環境問題の題材としてある子どもが冊子で見た「木と話す人々」樹木医」という記事を取り上げる。(六年)</p>	<p>自分達が体長五センチメートルのミクロキッズになったつもりでバーチャル体験を取り上げる。(五年)</p>	<p>「キーワードをもとにして、イメージを広げ、言葉から文へ、文から一つのストーリーを創り出させる。(三年)</p>	<p>「ネイチャーゲームをもとにした作文」「動物へ呼びかける作文」「不思議な森を探索する作文」(二年)</p>	<p>が食べますかり所にして。(六年)</p>
<p>「木と話す人々」の記事に出て来る老木の思いやその他の木々の思いを想像して、木が語るといふ形で創造的作文として書かしている。</p> <p>書いた作文については、意見の交流を行わせている。</p> <p>書き上げた作文やパンフレット・ポスターは公民館に置かせてもらい、地域の人々からの声を届けて貰っている。頂いたこれらの声に対するお礼の返事を書いて再度公民館に置かせて貰っている。</p>	<p>「何に変身させるか」「ミクロキッズの性格」「活躍する場所」「事件を巻き起こすもの」「解決の知恵」等を予め考えさせておく。</p> <p>一人で書く場合、四人ぐらいのグループでリレー式に書かせることがあってもよい。</p>	<p>最初にミクロキッズとなつて、教室の机や椅子を床の上から眺めさせて、その見え方を想像させている。</p> <p>様子や動きを表すことば、音、会話、たとえ等を付け加えさせる。</p> <p>書き始める前に物語の全体を見通させるように構想を立てさせる。</p> <p>「何に変身させるか」「ミクロキッズの性格」「活躍する場所」「事件を巻き起こすもの」「解決の知恵」等を予め考えさせておく。</p> <p>一人で書く場合、四人ぐらいのグループでリレー式に書かせることがあってもよい。</p>	<p>生活科の中で自然に親しませるよう、学校の近くの森に出掛け、ネイチャーゲームを体験させている。</p> <p>「落ち葉の下の虫になったつもりで、見たこと」書かせる。</p> <p>友達の作品を読み、感想をメッセージとして書かせる。</p> <p>「おおい、○○さん」という書き出しで書かせている。</p> <p>うっそうと繁った森の絵を見せながら、「ここは、どのようなところだろうか」と問いかけて作品への導入を図っている。</p> <p>出来上がった作品を集めて一冊の「森のたんけんき」として製本し、<u>回覧して感想の交流をさせたり、保護者からの感想の手紙の交流も行っている。</u></p> <p>キーワードを決める際には、①「ものの名前を表すグループ」、②「動作を表すグループ」、③「様子や気持ちを表すグループ」に分けて考えさせている。</p> <p>友達二人あるいはグループでキーワードを選ばせて書かせる。</p> <p>複数のキーワードの組み合わせから書かせる。</p> <p>一つの動作から次の動作へと結び付けて書かせる。</p>	<p>や感想を出し合わせたり、意見をリレーさせて考えを深めさせている。</p>
<p>想像文 生活意見文 呼び掛け文 (パンフレット、ポスター) 手紙文</p>	<p>想像文 創作物語</p>	<p>想像文 生活感想文</p>	<p>想像文 創作物語</p>	<p>想像文 創作物語</p>